

カトリック香里教会 四旬節第2主日 2021年2月28日

[そのとき、]イエスは、ただペトロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、服は真っ白に輝き、この世のどんなさらし職人の腕も及ばぬほど白くなった。エリヤがモーセと共に現れて、イエスと語り合っていた。-中略-すると、雲が現れて彼らを覆い、雲の中から声がした。「これはわたしの愛する子。これに聞け。」弟子たちは急いで辺りを見回したが、もはやだれも見えず、ただイエスだけが彼らと一緒におられた。

一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまでは、今見たことをだれにも話してはいけない」と弟子たちに命じられた。彼らはこの言葉を心に留めて、死者の中から復活するとはどういうことかと論じ合った。

—マルコ9章—

「彼に聞け」

毎年、四旬節の第2日曜日には、イエスの変容の場面に出会います。彼はペトロ、ヤコブ、ヨハネを高い山に連れて行き、主の栄光を垣間見させます。そこで彼らは、雲の中からイエスが誰であることを明らかにする御父の声を聞きました。「これはわたしの愛する子、これに聞け。」父なる神は、イエスが人間であるだけでなく、神でもあることを明らかにされたのです。

今日の福音は私たちにクリスチャン生活のありようを示しています。山の体験は、私たちがこのミサに集まり、礼拝しこころを養おうとしていることです。しかし、誰も山頂に永遠にとどまるわけではありません。ミサの後、私たちは降りて現実に戻り、他の人たちもまた生きていく中で神の変容を経験できるよう、自分自身が他の人たちの証人となるよう自分を変えていかなければなりません。

今日、私たちは「すべきことと、すべきでないこと。」のリストを与えられているわけではありません。代わりに、「彼に聞け」と言われます。聞くことは、私たちが誰にでも与えられる最も素晴らしい贈り物のひとつです。

私たちの社会は騒音とおしゃべりに満ちています。ですから、私たちがこの四旬節に実践できることは、家族、友人、そして周囲の人の、良い聞き手になることです。彼らは、本当は私たちに何を言いたいのでしょう。聞いたことがありますか。聞くことが、私たちが周りのことを理解するための最初のステップであることは明らかです。聞き方が分からないと理解することはできないでしょう。

現代では、他の人の話を聞く時間はますます少なくなっているでしょう。落ち着いて、偏見を持たずに人々に近づき、彼らの心配事に耳を傾ける方法がわからないのです。他の人が何を言おうとしているのかうまく聞けないのです。私たちは自分の問題に閉じ込められていて、他の人が誰であるか、何を言っているかにさえ気付かずに、他の人の側を歩いています。もしそうなら、私たちは聞く術を失くしているかもしれません。このように、私たちは、信仰とはイエスの教えに耳を傾けることであることを忘れてしまうことがあります。

イエスに従う者であるということは、イエスが言われたことを理解することから始まります。今日の福音は次のような描写で終わり：『「彼らは死者の中から復活するとはどういうことか」と論じ合った』。この弟子たちと同じように、私たちも人生の多くの場合、神が私たちに神の愛を明らかにし、私たちがどんなに世話をしたか、私たちが理解できません。

神が私たちに、見える目と聞こえる耳を与えてくださいますように。私たちが生活の中で神を見て、イエスが私たちに教えてくださったことを実践できますように。